

花や緑とともに生きる

須藤 真由美 福島県いわき市 六十五歳

真夏の強い日差しの中で、ノウゼンカヅラやサルスベリ、オシロイバナ、キキョウなどが元気に咲いています。室内では、ウンベラータやパキラ、ポトスなどの観葉植物が涼を運んでくれます。改めて家の内外に目をやると、なんとまあ、たくさんの花や緑のあること。それぞれの花や緑には思い出も詰まっています。

それらの中で一番心の奥深くに残っているのは「紅梅」です。夫が四十才のとき、心臓の手術を受けることになりました。私は教師として働き、長女が九歳、長男が五歳の冬でした。十時間余りの大手術で、その後「予定通りに手術は終わりました。」と告げられ、複雑な気持ちになったのを覚えています。「無事」「成功」はドラマの世界の言葉なんだ…。集中治療室には五十七日間いました。

ようやく一般病棟に移れることになった日、庭の紅梅が咲いているのを見つけました。夫に見せたくて一枝折って持っていきました。紅梅に顔を近づけると

「もう梅の季節か。いいにおいだなあ。ああ、生きている。」

夫は初めて泣きました。

悲しいときもつらいときも、どんなときでも身近に花や緑がありました。そして、それらに支えられ励まされ生きる力をもってきたように思います。これからも季節に寄り添い大好きな花や緑とともに生きていきます。